

## 【事業の実施状況】

# 各務原病院 (アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症の専門医療機関)

### 事業の基本情報

#### 1. 事業期間

平成30年4月 ~ 平成31年3月

#### 2. 支援対象者

アルコール、薬物、ギャンブル等各種依存症

#### 3. 専門職員の職種と主な業務

職種：精神保健福祉士

業務：アルコール、薬物、ギャンブル等の依存症患者に対し、受診後又は退院後に、民間支援団体と連携しながら継続して、生活上の問題の確認や地域の社会資源の情報提供、助言、指導を行う。

#### 4. 連携している民間支援団体

- ・NPO法人岐阜県断酒連合会
- ・ナルコティクスアノニマル
- ・岐阜ダルク
- ・デトックスセンターai

### 支援の内容

#### 5. 民間支援団体との連携内容

アローズ（少人数制完全クローズドミーティング）

依存症者であり、かつ専門家を招きミーティングを行う。

協力者は、精神保健福祉士、サービス管理責任者、相談支援専門員でかつ依存症者。

ミーティング参加者は毎日のクローズドミーティング参加を基本とする。

\*クローズドミーティング：依存症者のみミーティング、支援者も依存症者に限る。

#### 6. 継続的な支援の手法や内容

- ・事前教育（個別）
- ・365日のミーティングの開催（入院・外来患者の送迎、自助グループへの参加）
- ・イベントの参加（宿泊等）
- ・家族教育（少年鑑別所で月2回）

上記事項に当事者職員が同伴して行動を共にする。

初期2年はミーティングに参加を継続

依存行為を脱し、1年を目安として就労支援を行う。平均して空酔い状態が2年半ほど続くので、その間は支援対象とする。

#### 7. 事業の効果を図る指標（共通指標以外）

- ① 日常生活動作の確立
- ② 自助グループの継続的参加とサービス活動ができる。
- ③ 就労の開始及び継続ができる。

### 取組の効果や課題

別紙、参照

## 取組の効果や今後の展望

### <取組の効果>

- ・参加人数が男女比において、平成30年度のデータn値25名に対し、男性52%、女性48%で、一般的に依存症者に認められる著しい性差についてはここでは認められない。毎日混合ミーティングの開催をし、加えて女性のクローズドミーティングが週に2度行われていることから、頻回なミーティング開催で性差の問題が解消されていることが考えられる。
- ・外部の自助グループとアローグループを補完的に利用するメンバーが全体の48%認められ、少人数制や個別指導の事前教育や行動実践の同伴が影響していることが考えられる。毎日のミーティングに参加する者が放棄する者より勝ってきており、アローズの週に9度の院内ミーティングと夜間の週に2度の外部のミーティングの送迎が影響していることが考えられる。
- ・所在において不明のメンバーやまだ依存症の状態の自己開示が及ぼす、クリーンが不明のメンバーが過半数を超えており、開始時は毎日ミーティングが開かれていないこともあり、回復者がほとんど出ないことが2年程継続したが、今はその時期を過ぎ、44%ものクリーンやスーパークリーンの回復者が認められるようになった。
- ・働いているメンバー36%より無職のメンバーが44%と多く、仕事がない分、昼間の時間に治療に専念ができるため、アローズに来てプログラムを受講することで、回復に必要な基本的な知識と行動実践を培うことが出来ていることが考えられる。働いているメンバーも夜間は自助グループを利用し、休日にアローズに参加することも多く、日々集団活動を実践することで、ミーティングの重要性を理解し、行動変容に至っていることが出来ていると考えられる。
- ・毎月二度の少年鑑別所の家族会ステップスで、基本的な共依存症者との分離を行う必要性を説いているが、参加者のうち半数近くの家族や関係者がナラノン等の当事者の自助グループを知らない状態であった。家族会では毎回家族の自助グループに参加するように呼びかけ、周知を行うようにはしていることで、今後ナラノン等への家族の自助グループへ参加する者が増え、家族や関係者らの共依存からの脱却が進むことが考えられる。

## 〈課題・今後の展望〉

### 〈プログラムの選択について〉

・現在は依存症について、プログラムが乱立し、多くの情報があり、回復する側もどの情報が有効でどれを選択して良いのか分からぬ場合がある。事前教育で依存症においての正しい知識を整理し、長期的で実績のある方法をしっかりと根拠を提示しながら理解度を確認しながら伝えていく必要があることが考えられる。個人差もあるが、対象者が再発を繰り返している様であれば、プログラムに対する取組状況を見直す必要もある。

### 〈プログラムの開始・継続について〉

・異性探し等の遊び半分の感覚でプログラムに参加し、半年以内に脱落する者が過半数と多く、今後の課題となる。今後はこのような場合は情報の提示及び待つ支援を主に、本人の意志を尊重し、安易にプログラムを始めない方が良い場合もあることを事前に伝えておく必要がある。また、依存症の再発者らがプログラムを開始しようとする者に、偏った情報を共有してしまい、プログラムの受講者が治療者やプログラムに対して疑心暗鬼になってしまった事も幾度となくあり、その点でも参加者には事前にしっかりと個別の教育を入れておく必要がある。日々の訓練は大変なものになるが、しっかりととしたソブエティーやアブスティネンスを守るためにには、実績のあるクリーンのロングタイマーの指示を仰ぎ、特に初期数年のプログラムは毎日連続して行う必要がある。加えて、依存症の回復は机上だけでなく、行動を伴う支援を要すると考えられ、支援する側のプログラムが多人数なものであったり、対応するひとやプログラムがぶれたり、コロコロ変わったりすることは、混乱を招き安く、しっかりと自己開示ができず、疾病の再発につながりやすいことが考えられる。今後も継続してプログラムの一貫性を保つ必要があることが考えられる。

### 〈人間関係の訓練〉

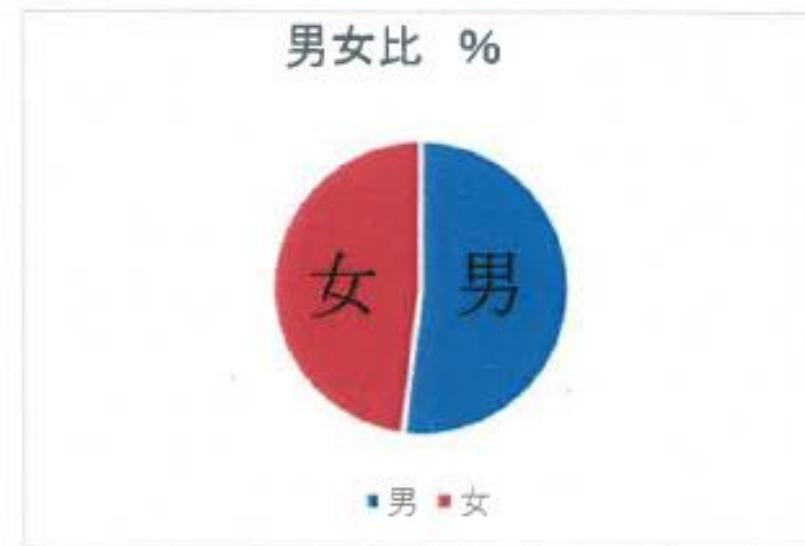
・一般的に依存症者は少数派である。依存症者はコンプレックスの問題が大きく、プログラム開始時やミーティングについて、空酔い期間は特に依存症者のみと関わることが必要であるとされているが、治療が進んで、社会に適応するためには、いずれは依存症者でない者の関わりを要することになる。依存行為をしっかりと脱却し、症状が安定した数年経過した頃には一般的な日常生活訓練は健常者との関わりを増やしていく必要がある。依存症者とそうでない者の双方の訓練が必要となることが考えられる。

<地域連携>

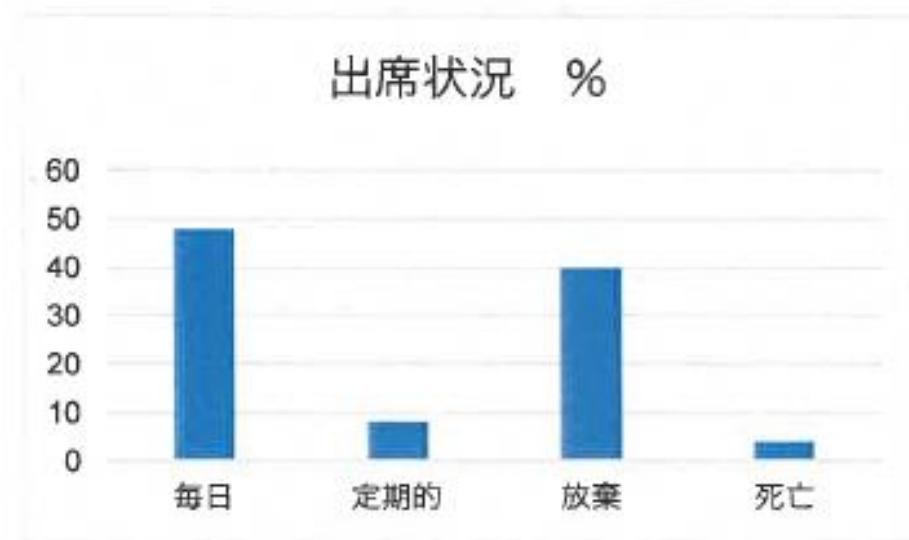
・患者が無料の自助グループを利用せず、医療にとどまっていることは、医療費の増大や患者及び家族の不利益につながることにもなりかねない。回転ドア現象を招くことで、医療側も結局不利益を被ることや二次受傷や代理受傷をはじめ、医療の混乱や医療不信を招きやすい。現にマスメディアでは精神医療について、医師の診察の詳細や、違法な処方薬の売買等、様々な情報が飛び交って、治療行為については細かく言及されている場面も多々認められる。今後はより一層誠実な治療者の対応が求められていることは言うまでもない。

## アローズ 平成30年度 対象者データ

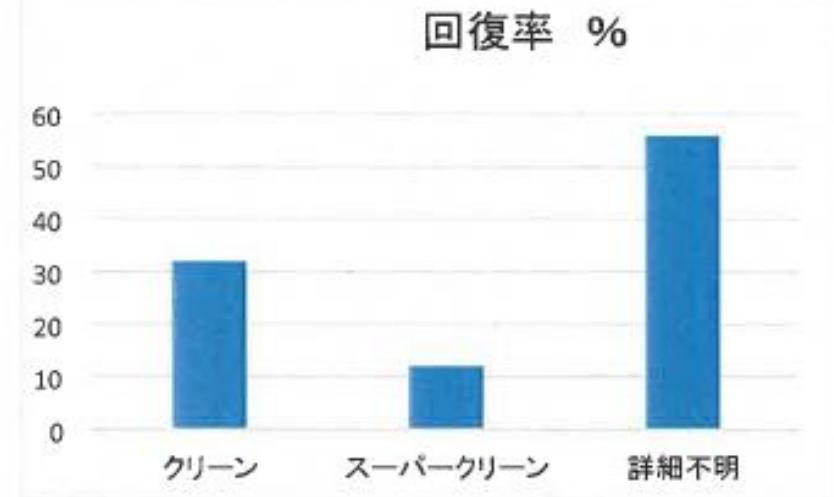
男女比	%	人数
男	52	13
女	48	12
合計	100	25



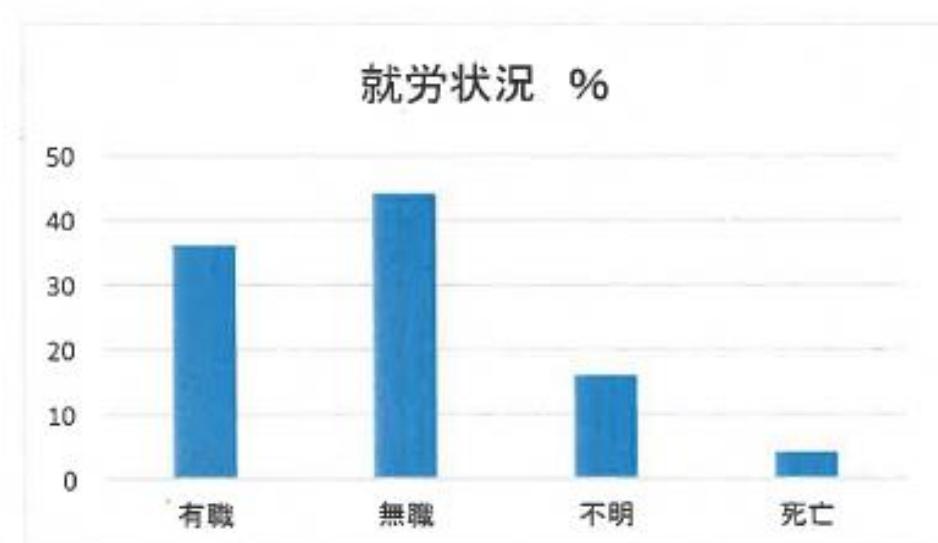
出席状況	%	人数
毎日	48	12
定期的	8	2
放棄	40	10
死亡	4	1
合計	100	25



クリーンの状況	%	人数
クリーン	32	8
スーパークリーン	12	3
詳細不明	56	14
合計	100	25



就労状況	%	人数
有職	36	9
無職	44	11
不明	16	4
死亡	4	1
合計	100	25



## 考察

- ・男女比がほぼ同数である。性差が著しい依存症において、このことは、女性クローズドミーティングが週に2度行われているが、そのことが有効に働いていることが考えられる。
- ・地域の自助グループやアローズを混合して参加して、毎日のミーティングを確保出来ている者がプログラムを放棄する者より勝ってきている。アローズでは毎日ミーティングを行い、週に9度ものミーティングを開催していることから、日々のミーティングの重要性が理解出来たメンバーが多数いることが考えられる。
- ・まだ深い自己洞察に至らず、現状を話したがらないメンバーや、どうなったか分からぬメンバーが半数以上になる。病態やプログラムに個人差があり、そのことも反映していることが考えられる。時期尚早の自己開示はうつ病や自殺のリスクを高めるため、本人が正直に話出来るようになるまで待つことも大切ではないかと考えられる。
- ・働いているメンバーよりも無職のメンバーが多く、仕事がない分、昼間の時間、治療に専念できる環境を作っていく必要があると考えられる。働いているメンバーは夜間や休日、できるだけ自助グループに参加し、共依存症者との分離を行う必要があると考えられる。

## 事業の基本情報

## 1. 事業期間

平成30年11月15日～

## 2. 支援対象者

当センター入院及び通院患者

## 3. 専門職員の職種と主な業務

PSW、Ns…プログラム運営及び同行支援

## 4. 連携している民間支援団体

AA、断酒会  
NA、大阪ダルク  
GA

## 支援の内容

## 5. 民間支援団体との連携内容

AA・断酒会…外来プログラムでのミーティング運営への携わり/入院プログラムにおける  
自助グループへの同行支援

NA…外来プログラムでのメッセージ

GA…外来プログラムでのメッセージ

## 6. 繼続的な支援の手法や内容

プログラムへの参加状況に応じて対象者へ連絡し、継続の状況などを把握。  
状況によっては再度の同行支援を行う。

## 7. 事業の効果を図る指標（共通指標以外）

プログラムへの参加状況  
自助グループからの情報確認

## 取組の効果や課題

## 【取組の効果や今後の展望】

入院プログラムでの自助グループ説明や限られた期間内での同行支援ではなかなかつながりにく印象であったが、実際に自助グループにつながるかどうかは別として、プログラムで時間を共に過ごしたり、体験を共有することで自助グループに対するハードルを下げることにはつながっている。

## 【課題】

## 事業の基本情報

## 1. 事業期間

平成30年4月～平成31年3月

## 2. 支援対象者

アルコール依存症  
薬物依存症  
ギャンブル依存症

入院・外来の方

## 3. 専門職員の職種と主な業務

精神保健福祉士

《業務》初診のインターク面接より患者担当制をとり、生活上の相談と共に依存症関連施設や自助会の案内や同行支援を行う。  
依存症関連施設との連絡調整を行う。  
本人・家族を対象としたグループワーク実施。

## 4. 連携している民間支援団体

断酒会	AA	NA	GA	EA
横浜ダルク	川崎ダルク	相模原ダルク		
湘南ダルク				
横浜マック	川崎マック	インダー		
寿アルク	BB	たんぽぽ		
RDP横浜				
ヌジュミ	等			

## 支援の内容

## 5. 民間支援団体との連携内容

- ①「PSW講座」：1／月実施する社会資源等の紹介のプログラムに、連携している施設を招いて施設の説明を行う。
- ②「メッセージ」：断酒会、AA、NAのメンバーが院内でメッセージ活動を1／月実施。
- ③入院・外来のプログラム「SMARPP」にダルクメンバーを招きファシリテーター補助としてミーティングに参加してもらう。
- ④「せりがや会」：毎年4月に断酒、AA等の団体と当院とで、依存症からの回復を目指すイベントを開催し、入院、通院中の方にも参加を呼びかけている。毎年100名以上の参加あり。

☆上記のように入院、通院者が依存症関連施設のメンバーと顔を合わせる機会を設け、必要に応じて施設や自助グループ等への見学や体験参加に専門職員が同行支援する。

## 6. 繙続的な支援の手法や内容

外来通院時や電話で生活状況や日中活動、自助グループへの参加状況などを確認していく。民間施設通所や訪問看護導入している方については必要に応じてケア会議を開催し評価していく。

## 7. 事業の効果を図る指標（共通指標以外）

- ①支援開始後6ヶ月、1年後の外来治療継続率。
- ②自助グループまたは回復施設参加率。
- ③支援開始後のその他の社会資源利用率。

## 取組の効果や課題

## 【当院の依存症治療の基本的な考え方】

- ◆ 依存症者は衝動的で治療から脱落しやすく、治療中断が物質の再乱用の引き金となる。しかし、再使用の有無に視点を置くのではなく、中長期的な視点で依存症からの回復（＝心理的かつ社会的な孤立の解消）を目指すことが重要と考える。
- ◆ 「心理的かつ社会的な孤立の解消」のために通院を継続し、生活上の課題への助言指導等の支援を受けることや、自助グループに参加し仲間の共感と支持による支援を受けることは重要である。

## 【取り組みの効果や今後の展望】

## ○ 施設紹介のプログラム

神奈川県内には依存症関連の民間施設が複数活動しており、施設毎に特色がある。これまでPSWがそれぞれの施設のパンフレットを使って説明していたが、実際に施設のスタッフが来てくれることで質疑応答が可能になり、また顔の見える関係ができたため、施設を訪問する際の心理的ハードルが下がる。一方で複数あるために比較して通所先が決まらない場合もあるが、専門職員が同行支援しながら相談に乗り、最終的に本人が決める形にすることはその後の通所継続に向けて効果的と言える。

## ○ 自助グループへの参加

自助グループについては以前は病院の近隣の会場に職員が同行していたが、現在は退院後につながりやすいように外泊時に居住先の自助グループへの参加を推奨している。そのため専門職が同行支援すると同時に地域の情報提供を行うなど個々に応じた支援をしている。

今後、本人の了解があれば事前に自助グループに参加者の名前を伝えるなど丁寧な紹介を行っていくなどの取り組みを進めたい。

## 【課題】

## ○ ギャンブル依存への取り組み

ギャンブル依存の方は少ないが、民間施設やGAとの連携をより進める必要がある。

# 【(静岡県①)事業の実施状況】 聖明病院 (アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症の専門医療機関)

## 事業の基本情報

### 1. 事業期間

平成30年11月22日～平成31年3月31日

### 2. 支援対象者

聖明病院受診後（退院後通院者含む）の依存症者及び家族。

### 3. 専門職員の職種と主な業務

看護師・精神保健福祉士・心理士・院内自助グループ担当職員

- ・退院後依存症者並びに家族・県断酒会を招き、入院中の患者と病院職員で定例会の開催。職員は、企画・連絡調整・設営・運営を行う。1回/月
- ・上記定例会の拡大例会として年2回、各分野の講演者による特別講演と断酒継続者（3・5・10年）の表彰を実施。職員業務は同上。
- ・県内の静岡ダルク・スルガダルクが当院会議室で、退院後依存症者・入院中の患者が参加しダルクメッセージ（当事者ミーティング）の開催。職員は、連絡調整・設営・運営補助を行う。1回/週
- ・当院デイケアにおいて、退院後の患者に対し実施する、認知行動療法を活用した集団療法に静岡ダルクスタッフが当院職員と共同して実施。1回/週

## 取組の効果や課題

【取り組みの効果】 静岡ダルクと連携した、依存症専門デイケアが、再飲酒と薬物再乱用の防止に効果を発揮している。回復者がコ・ファシリテーターとして、集団認知行動療法で指導的役割を果たしている。

【今後の展望】 外来患者・入院患者ともに回復者と触れ合うことが可能となり、速やかな地域移行にも繋がっている。今後もこの取り組みを継続し、開かれた医療を実践していきたい。

### 【課題】

院内自助グループ「T A C T」と断酒会の交流の場として、「あしたばの仲間交歓会（拡大定例会）」を行っているが、最近断酒会会員の減少が目立ち、交歓会自体が縮小傾向にある。今後断酒会と連携し、予防啓もう活動を行うことで、潜在患者の掘り起こしを行う。

## 支援の内容

### 4. 連携している民間支援団体

静岡県断酒会・静岡ダルク・スルガダルク

### 5. 民間支援団体との連携内容

- ・院内で県断酒会の各支部会員を招いて断酒定例会を開催。
- ・院内でダルクメンバーを招いて当事者ミーティングを開催。
- ・ダルクスタッフと共同して、回復プログラム（集団療法）の実施

### 6. 繙続的な支援の手法や内容

県断酒会の各支部及び県内ダルクへの連絡調整。依存症者並びに家族の同意の基、断酒会・ダルクへの紹介により、支援団体（自助グループ）に繋げる  
当院退院後の依存症者で断酒継続者表彰のための連絡により現況確認。

### 7. 事業の効果を図る指標（共通指標以外）

断酒率、薬物再使用率、医療継続率。

## 事業の基本情報

## 1. 事業期間

平成30年11月22日～平成31年3月31日

## 2. 支援対象者

当院に受診したアルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症の患者及びその家族

## 3. 専門職員の職種と主な業務

クリニックパスを柱に依存症の援助（治療）を行っている。

＜専門職として依存症研修修了者＞

医師：5名、看護師：5名、精神保健福祉士：5名、

作業療法士：1名、臨床心理士：1名

＜依存症疾患指導研修修了者＞

医師：1名、看護師：2名、精神保健福祉士：1名

## 4. 連携している民間支援団体

断酒会、AA、GA、NA、ダルク、えある（GAの家族会）

## 支援の内容

## 5. 民間支援団体との連携内容

当院の3名の職員が運営し、自助グループ等を支援員に招いて、毎週金曜日の午後7時から9時に、アルコール依存症の例会、薬物の例会（院内呼称サクセス）を支援対象者に対して実施。

また、患者家族を対象としたギャンブルミーティングも実施している。

GAが主催するギャンブルミーティングでは、当院で場を提供している。

## 6. 繼続的な支援の手法や内容

- ・年1回アルコール依存症の退院者について同窓会（依存症に関する講演会）を催し、往復はがきで参加の有無を確認し、自分の状況を報告してもらう継続的支援を実施。
- ・自助グループ、AA、断酒会のメッセージ及び自助グループに参加した体験談を聞く機会を通じ、継続的な支援を受けるミーティングを実施。
- ・その他として、酒無し忘年会、自助グループ例会、記念大会などに当院の専門職も参加し、回復と再発などの相談を受けている。

## 取組の効果や課題

## 【取組の効果】

自助グループ（断酒会、AA、NA、ダルク）等と連携しミーティングを開催することで再飲酒や薬物の再使用防止につながっている。継続的、定期的に病院側からつながることで、受診後の患者の現況を把握できている。

## 【今後の展望】

平成31年2月に総合病院の職員向け研修を実施予定。近隣総合病院職員への依存症啓発のきっかけになることに効果を期待している。

依存症治療拠点機関としての役割が明確にできればと考えている。

## 事業の基本情報

## 1. 事業期間

平成30年11月1日から平成31年3月29日

## 2. 支援対象者

アルコール依存症の外来および入院患者の中で、説明書面を交付し、患者本人の同意が得られた者

## 3. 専門職員の職種と主な業務

## 医師

- ・アルコール依存症の外来および入院患者に、依存症から回復するためには、医療機関と民間支援団体（自助グループ）が連携し、継続的に支援する必要があることを説明し、電話によって自助グループにつなぐSBIRTSを行う。

- ・精神保健福祉士および看護師と共に、患者の相談業務や事後調査を実施

## 精神保健福祉士

- ・医師、看護師と共に患者の相談業務や事後調査を実施

## 看護師

- ・医師、精神保健福祉士と共に患者の相談業務や事後調査を実施

- ・SBIRTSを行った患者のデータ管理

- ・民間支援団体や行政等関係機関との連絡調整

## 4. 連携している民間支援団体

愛知県断酒連合会、AA刃谷グループ、三河ダルク

## 支援の内容

## 5. 民間支援団体との連携内容

- ・SBIRTS (Screening : スクリーニング、Brief Intervention : 簡易介入、Referral toTreatment & Self-help group : 専門治療と自助グループへの紹介) を実施し、対象者（場合によってはその家族）に対し直接断酒会員から断酒会の案内を行い、例会参加につなげる。
- ・院内で民間支援団体の支援員とミーティングを開催する。
- ・民間支援団体が開催する家族教室や講演会等に講師として参加するなど、民間支援団体との協力・連携強化を図る。

## 6. 継続的な支援の手法や内容

- ・対象者の治療の継続状況・再飲酒の状況・自助グループの参加状況を確認し、状況に応じ介入及びサポートを行う。必要に応じて自助グループ等の民間支援団体と連携し支援していく。

## &lt;手法&gt;

- ・対象者の状況（断酒会への参加状況や生活状況、困りごと等）については、対象者の受診時に直接、または電話や手紙その他の方法によって、医師、精神保健福祉士又は看護師等が確認し、必要に応じて助言等を行う。
- ・対象者に直接確認できないなど状況によっては、当院から断酒会へ直接確認する。

## 7. 事業の効果を図る指標（共通指標以外）

- ・SBIRTS実施件数

## 取組の効果や課題

【取組の効果や今後の展望】※他の医療機関に推奨する点を含め記載してください。

SBIRTSを行った患者や家族の中には、受診時に断酒会員と直接話ができることで、前向きに気持ちが変化したケースもあるため、継続的に予後調査をすることで、その効果を知ることが出来る

## 【課題】

受診後の患者にさまざまな手段を使って、継続的に関わるためのマンパワーが必要

## 事業の基本情報

## 1. 事業期間

平成31年1月～3月

## 2. 支援対象者

アルコール依存症（入院・外来とも）

## 3. 専門職員の職種と主な業務

（2医療機関とも）

職種：看護師

業務：医師の指示のもと、自助グループ紹介の動機づけ面接

自助グループの連絡調整

自助グループミーティングへの参加支援

院内多職種でのカンファレンス実施

自助グループとの連携についての課題整理

県が実施する治療拠点機関・専門医療機関連携会議への出席

## 4. 連携している民間支援団体（予定含む）

三重断酒新生会、AA中部北陸セントラルオフィス、三重ダルクなど

## 支援の内容

## 5. 民間支援団体との連携内容

入院、外来患者において、自助グループへの紹介が適当と思われる患者について、医師の指示のもと、自助グループを紹介。

自助グループは、電話、病院への訪問等により、当該患者と面接や自助グループへの参加支援を行う。事業実施医療機関は、自助グループと綿密な連携を図りながら、協働して支援を行う。

## 6. 繼続的な支援の手法や内容

事業実施医療機関は、自助グループと綿密な連携をとり、自助グループ紹介患者が、継続して自助グループに参加し、断酒が継続できるよう支援を行う。

また、自助グループへの参加が継続できなかった者について、外来受診時などに面接を行うなどして、本人の気持ちに寄り添った支援を行う。

事業実施医療機関は、自助グループへの参加が継続できなかった事由やその課題について、自助グループと協議を行うとともに、必要に応じ、治療拠点機関・専門医療機関連携会議の場で協議を行う。

## 7. 事業の効果を図る指標（共通指標以外）

自助グループへの紹介率

## 取組の効果や課題

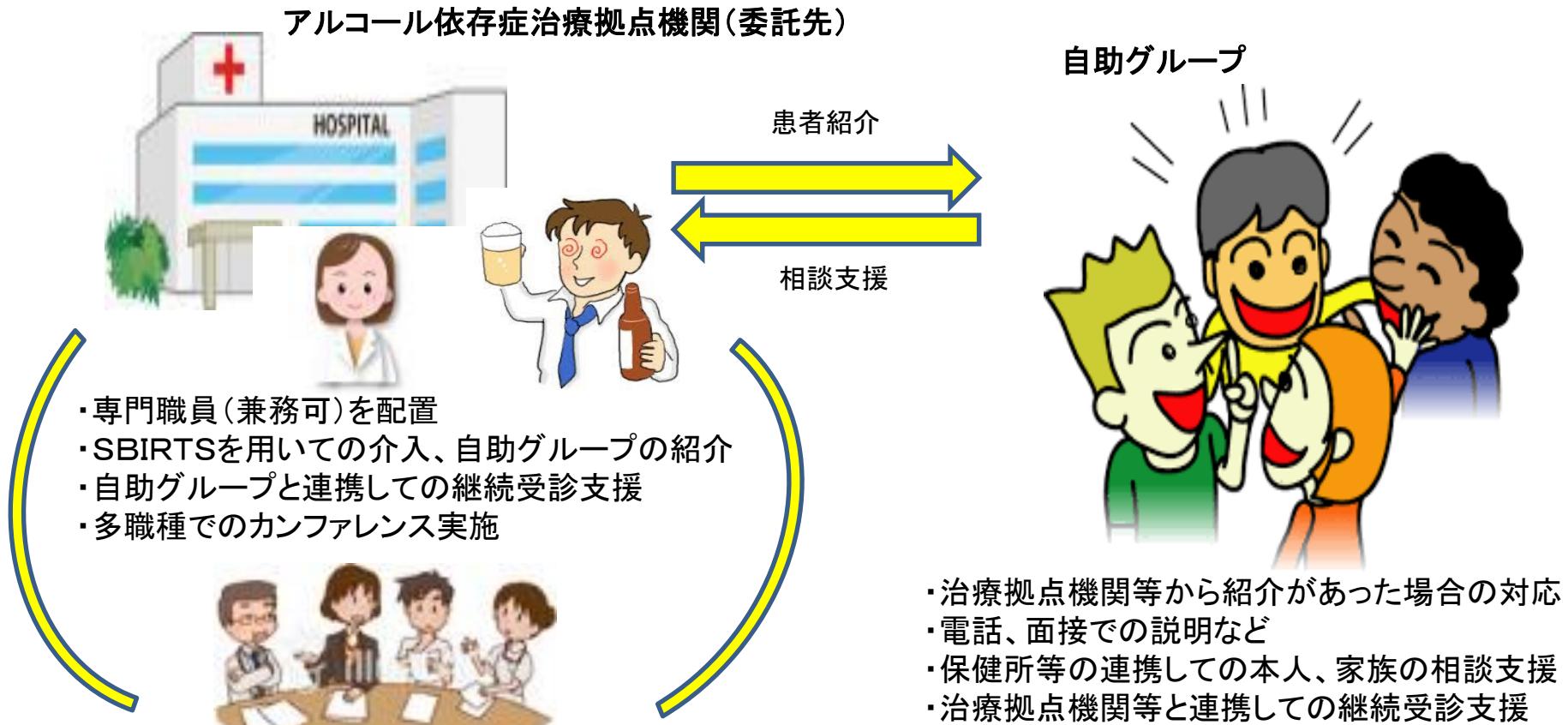
## 【取組の効果や今後の展望】

平成31年1月から実施する事業のため、効果の検証はこれからであるが、①断酒継続者の増加、②治療拠点機関・専門医療機関とのグループとの連携強化、③自助グループのさらなる活性化につながることを期待している。

## 【課題】

当県は、治療拠点機関・専門医療機関について、6つの医療機関を選定した。当該事業実施医療機関以外の医療機関へも委託したいと考えているが、予算確保に課題がある。

# 三重県アルコール依存症患者受診後支援モデル事業



## アルコール依存症治療拠点機関

- 専門医療機関連絡会議
- SBIRTSの実施状況などを協議

## 【平成30年度実施スケジュール】

平成30年11月 アルコール依存症治療拠点機関、専門医療機関申請受付開始

12月 三重県精神保健福祉審議会アルコール健康障害対策推進部会にて意見聴取のうえ選定

平成31年1月～ 事業実施